

「今の自民党執行部の雰囲気では西田先生は郵政反対派の  
ように潰されてしまうのでは？」

平成 29 年 7 月 4 日

●でんきやさんからの質問

昔居た細川霊媒師ではありませんが、ズバリ言います。今の自民党執行部の雰囲気、空気の中のエスタブリッシュメントでは西田さん自身（等の考え）が潰されてしまうと思います。今は他党も含めこの人達と思う方々で分裂し反グローバルを掲げるべきでは？（橋下の入閣が出始めており、なんとなく雰囲気はホリエモン等を立てていた自民党に行きそうで、西田さん等は逆に郵政反対派みたいに血祭りとして総括されてしまいそうです。）未来は分裂していくとしてもです。

●西田昌司の答え

郵政民営化の頃、自民党は確かに新自由主義に大きく傾いていましたし、それに反対する人間は抵抗勢力として排除されるというところでもないことが起こりました。また、今の自民党にもそのような空気が全くないとは言えないでしょう。

自民党が下野した原因は、党内に新自由主義が蔓延してしまっ国民の反発を買ったからですし、その結果として民主党に政権を奪われてしまいました。しかし、その民主党も新自由主義路線を突っ走ってしまったのです。彼らは子供手当といった政策を掲げて実行しましたが、その財源を国債で賄えばよかったものの予算の付け替えによってしまったために景気回復には繋がりませんでした。彼らもマクロ経済を全く理解していなかったために事業仕分けと称して予算をどんどんと削減してしまい、デフレを加速させる結果にしかならなかったのです。

自民党の政権奪還後、脇雅史先生が参議員幹事長を務めていた頃ですが、新自由主義を排除するために党を超えた大連合をすべきといった声が自民党内の一部にありました。当時、自民党は参議員で過半数を占めていませんでしたし、次の衆議院選挙で自民党が負けるようなことがあったら大変だという危機感がありました。反新自由主義で一緒にやっていけると思える民主党の議員に働きかけていましたし、今でも気脈を通じているところがあります。安倍総理も新自由主義にべったりの考え方をされてはいるとは思いませんが、総理の周りにそういった人が多くうごめいていて、総理を上手く誘導しようと画策しているもの事実です。

私が新自由主義にかぶれた連中によって血祭りに上げられるのでは、と心配していただけるのはうれしく思いますが、私は逆に連中を血祭りに上げてやろうと構えていますので、ご心配は無用です。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>